

第7系桜号の経歴

昭和45年12月10日	島根県仁多郡横田町鳥上 佐伯和芳方に生まれる (母牛第九いとざくら号の7産)
昭和46年11月26日	県立畜産試験場で産肉能力直接検定終了 (検定期間 46.7.9～46.11.26 DG 1.38kg)
昭和46年12月1日	島根県仁多郡横田町八川 堀尾邦雄氏により種雄牛として育成
昭和47年3月21日	県有種雄牛として島根県が購買(価格1,000,000円) (選定購買者 寺尾正二、志谷豊策、小滝芳輝) 県立畜産試験場に繋養
昭和47年4月17日	凍結精液により分譲開始 利用地域(仁多、飯石、出雲)
昭和48年4月1日	県立種畜センターに繋養 利用地域(仁多、飯石、出雲、大田)
昭和49年1月30日	本原登録受検 黒原 65 得点 80.01点 利用地域(大原、西部を加える)
昭和50年3月9日	県立畜産試験場で産肉能力間接検定終了(検定期間 49.5.12～50.3.9、DG 1.02kg+3.4) 精液 県下全域利用
昭和50年11月	高等登録受検 黒高 498 得点 81.0点
昭和51年3月	育種登録受検 黒育 29 得点 81.0点
昭和51年後期	県内外より産子の肥育成績において増体、肉質共に優れ、 枝肉上物格付率高く人気上昇
昭和52年5月	宮崎県で開催された第3回全国和牛能力共進会に産子4頭出品、優等賞上位入賞 (理想肥育区で3席)
昭和52年以降	県肉牛枝肉共進会、全農主催肉牛枝肉共励会等で上位独占、大阪食肉市場で第7系桜号中心に島根牛の銘柄定着
昭和53年4月	肉用牛集団育種推進事業並びに和牛育種組合の基幹種雄牛として活躍、子牛価格 県平均を大巾に上廻る
昭和57年8月25日	第4回全国和牛能力共進会参考出品決定後斃死 (凍結精液保存本数 7,280本)
昭和57年9月	第4回全国和牛能力共進会去勢肥育区に本牛の産子が島根、長野、愛知より4頭 出品され優等賞上位入賞(枝肉格付等級特選3頭)
昭和57年10月以降	肉用牛集団育種推進事業及び和牛育種組合の基礎牛に限定交配し、系桜系の系統 造成に努める。